

「下高野街道」道標と案内板

vol.244

西田 孝司 (松原市文化財保護審議会)



▲化粧まわし姿の嶋ヶ崎 (岸田末吉、大正～昭和初期ごろ) (岸田充三郎氏提供)と「嶋ヶ崎」墓 (天美北7丁目)



▲改築される「しみせ」(昭和44年3月) 手前が下高野街道。中央に道標と墓石が建つ。右は天美商店街への道 (岸田充三郎氏提供)。



▲池内地蔵道標 (右)・墓石 (左)と「下高野街道」案内板 (天美東8丁目)

池内の「しみせ」前に祀られる 我堂・嶋屋安兵衛建立の地藏

大林寺(融通念仏宗・北新町)前住職の伊藤孝文さんは、今年に入ってから長尾街道・竹内街道・中高野街道(阿保茶屋・一里塚跡)という市域を通る古道の案内板を彫られ、「まつばらまちの案内人」に寄贈していただきました。各街道沿いに設置されていますので、見られた方も多いでしよう(歴史ウォーク)236・239・240・243。その上、下高野街道の案内板も今秋、つくっていただき、早速、取り付けました。

下高野街道は四天王寺(大阪市天王寺区)を起点として、現在の大和川下高野橋を渡って阿麻美許曾神社(天美地区の城連寺・油上・芝・池内の氏神)の東側を通り、天美に入ります。天美南の堀を経て、布忍の向井や東代・更池の地域を南に下って河合に出て、さらに南下して、狭山池(大阪狭山市)に至り、近くで中高野街道と合流していました。

寛文九年(一六六九)の「河州丹北郡油上村絵図」に阿麻美許曾神社の参道に「高野海道」とあり、江戸時代以降、高野山(和歌山県)に向かうルートの一つでした。今回、案内板の設置場所は街道に面する天美東八丁目で、江戸時代は丹北郡池内村でした。近鉄河内天美駅に至る天美商店街の西端アーケードが建っている所です。

北側の岸田充三郎さんのご厚意で敷地をお借りしました。

同所には、江戸時代に建てられたと思われる下高野街道の道標が見られます。正面に地藏立像を彫る蒲鉾型角柱の形態です。地藏の下に「石志き山八尾ひらの三宅村」「左大坂天王寺あま岸」とあります。左面は「施主我堂村嶋屋安兵衛」、裏面に「すぐ高野山狭山道」と刻されています。狭山方面からは右に曲れば信貴山(奈良県)や八尾・平野・三宅に行く案内としてあります。左は大坂や四天王寺へ向かい、あま岸とは新大和川の阿麻美許曾神社側の舟着き場をいいます。阿麻美許曾神社は「阿麻岐志宮」とも呼ばれていました。反対に、大坂方面からはまっすぐ進めば、高野山や狭山に行くことを示しています。近くの天美我堂の嶋屋安兵衛が寄進しました。

建立年代は記されていませんが、天美我堂七丁目の善正寺(真宗大谷派)前の石造地藏堂に祀られる嘉永元年(二八四八)七月の歳の上地藏尊が信貴山や堺を案内する道標として利用されておられ、この世話人の中に安兵衛と思われる人物がいます。「施主東西我堂村中」とあり、世話人として「中長・松甚・川惣」などと共に「嶋安」が見られるのです。この嶋安こと嶋屋安兵衛は東我堂村の山口家の人(山口安兵衛)で、善正寺の門徒でした。慶応二年(一八六七)八月、六十七歳で亡くなりました。

池内道標は、安兵衛の没年から江戸時代末期の建立と思われるのですが、岸田さん代々の方がお世話をされ、今に至っています。充三郎さんの祖父の末吉や祖母のコリクは、明治時代後半ごろから街道を通る人々の休息所として、お酒などを提供する店を営んでいました。当時、付近に店舗がほとんどないことから、人々はこの店を「新店」と称し、のち「しみせ」と呼び親しまいました(昭和五十二年閉店)。

一方、末吉は商いを続けながら、河内村相撲の興行をしていたことでも知られています。「嶋ヶ崎」という四股名を持ち、村相撲をとり仕切っていたようです。末吉は昭和十三年(一九三八)二月、四十歳で亡くなりました。昭和二十三年(一九四八)二月十三日に再建された「嶋ヶ崎之墓」と刻まれた力士墓が城連寺・池内共同墓地(天美北七丁目)の無縁墓に祀られています。

なお、道標と並んで一基の僧侶の墓石も見られます。正面に「明蓮社全善上人満志大和尚」、裏面に「延宝八庚申天」とあります。延宝八年(一六八〇)に建てられました。これは、末吉が自宅西方の我堂方面で井戸を掘るよう頼まれて作業をしている際、地中から出てきたもので、末吉が供養のために屋敷内に祀ったものです。

「下高野街道」案内板の設置を契機に、道標がウォークの道しるべとして再認識されることを願っています。